

TOKYO  
商工連

とうきょう商工連プラザ

Plaza

2023

11

vol.374

商工会は 行きます 聞きます 提案します



## CONTENTS

- ② 自由民主党の「令和6年度 国家予算・税制改正等要望聴取会」に出席  
「制度改正」、「小規模企業振興」、「地域」の3分野で16項目を要望  
東京都商工会連合会
- ③ 都議会各党に「令和6年度 東京都予算」で要望  
持続可能な未来に向け中小・小規模企業の支援強化を 東京都商工会連合会
- ④ 「多摩ものづくり応援団」結団式  
多摩地域ものづくり中小企業の「事業創造」を応援 東京都商工会連合会
- ⑤ ・多摩地域商工会エリアの景況 5年度第2四半期  
・多摩・島しょ地域のイベント
- ⑥ <連載>島おこし・多摩おこし(有限会社 山田屋/八丈町商工会会員)
- ⑦ <連載>わが社の経営革新計画(株式会社 ユニフローズ/あきる野商工会会員)
- ⑧ <連載>商店街の繁盛店(御菓子 清水屋/東村山市商工会会員)

島の魅力を世界に、  
世界の魅力を島民の皆様へ届ける

有限会社 山田屋

代表取締役 山田 達人氏

P6に関連記事:「島おこし・多摩おこし」を掲載



自由民主党の

# 令和6年度 国家予算・税制改正等要望聴取会 に出席

東京都商工会連合会

- 下請け企業の取引価格の適正化
- 消費税制度の見直しと価格転嫁等に対する支援の継続と強化
- 原油・原材料価格をはじめとした物価高騰対策の拡充・強化

など3分野16項目を要望

東京都商工会連合会（都連、山下真一会長）は10月4日、東京・永田町の自由民主党本部で開かれた同党東京都支部連合会の「令和6年度国家予算・税制改正等要望聴取会」に出席し、「制度改正」、「小規模企業振興」、「地域」の3分野にわたって、計16項目を要望しました。

山下都連会長は聴取会の冒頭で、

「3年に及ぶコロナ禍もようやく落ち着きを見せはじめ、多摩・島嶼地域の企業の業績もコロナ禍以前の状況に回復しつつある。町の賑わいも戻

り、今年の夏祭りや地域のイベントには予想以上の多くの人があった。

都連としても、さらなる回復につながるものと期待している」と述べました。しかし、一方で「長引く原材

## 令和6年度

### 国家予算・制度等に対する要望

#### I. 制度改正要望

- 一. 原油・原材料価格をはじめとした物価高騰対策の拡充・強化について
- 二. 消費税制度の見直しと価格転嫁等に対する支援の継続と強化について
- 三. 中小・小規模企業の実態を踏まえた「働き方改革」の実施について
- 四. 地域別最低賃金の決定方法の改善について
- 五. 中小・小規模企業の円滑な事業承継に資する税制の延長・見直しについて

#### II. 小規模企業振興要望

- 一. 下請企業の取引価格の適正化について
- 二. 小規模企業の持続的発展につながる実効性ある支援の拡充・強化について
- 三. 小規模事業者向け融資制度の一層の充実について
- 四. 官公需の更なる中小・小規模企業配分について
- 五. 中小・小規模企業の社会保険料の負担軽減について

#### III. 地域要望

- 一. 横田飛行場の民間利用促進について
- 二. 多摩地域から羽田空港への鉄道アクセスの強化について
- 三. 多摩地域都市基盤整備の早期実現について
- 四. 商店街の活性化について
- 五. 島嶼地域の航空燃料、ガソリン価格高騰に対する支援について
- 六. 小笠原空港の早期開設について



▲「下請け企業の取引価格の適正化」を要望する山下会長

料価格や、電気料金、ガソリン価格などの高騰で、中小・小規模企業にとって依然として厳しい状況が続いており、コスト増を価格に適正に転嫁できない企業が半数以上にも及び、経営を圧迫している」と指摘し、まだまだ予算を許せない状況であると認識を示しました。

続けて「政府の賃上げ要請や大企業を中心に大幅な賃上げが実施されている状況下で、収益力が弱く十分な賃金引上げができない中小・小規模企業では、人手不足が深刻な状況。これが続くと、事業の縮小や人材流出などにもつながり、厳しい選択を迫られる事業者が出るのが予想される。商工会では、DX化による事業の効率化、新製品やサービスの開発

などで創意工夫を重ね、経営努力を続けている中小・小規模企業に対し、国や東京都の助成制度や融資等、各種支援策を周知して活用につなげるなど、きめ細かな支援を推進してきた」として、下請け企業の取引価格の適正化や、消費税制度の見直しと価格転嫁等に対する支援の継続と強化などを要望しました。

聴取会には、山下会長のほか、長谷川一也副会長、奈良部義彦副会長、傳田純専務理事、小野寺崇専務局長、小林義彦専務局長が出席し、要望を伝えました。山下会長が要望の骨子を述べ、傳田専務が制度改正要望、小規模企業振興要望、地域要望などを中心に具体的な要望の内容を説明しました。



▲消費税制度の見直しと価格転嫁等に対する支援継続を要望する山下会長

# 持続可能な未来に向け 中小・小規模企業の支援強化を

都連  
都議会各党に「令和6年度 東京都予算」などで要望

東京都商工会連合会（都連）は9月6日までに、東京都議会自由民主党、同立憲民主党、都民ファーストの会、東京都議会議団、東京都議会公明党を訪ね、令和6年度の東京都予算などに対して要望しました。持続可能な未来に向け、多摩・島嶼地域の中小・小規模企業を支援するための十分な予算を確保するとともに、地域の魅力を観光やビジネスに結び付け、持続的発展に繋げることを求めました。9月4日に開かれた「都議会自民党の予算要望聴取会」で、山下真都連会長は「ポストコロナの時代を迎えたとはいえ、長期化する原材料価格と電気料金等の高止まり、さらに継続する円安など、中小・小規模企業を取り巻く経営環境は厳しい。この環境下でも新たな時代への対応を進め、新製品の開発や生産性の向上に取り組み、中小・小規模事業者への支援を強化することが重要であり、地域経済の担い手である商工会の要望をぜひ実現していただきたい」と訴えました。

都連が要望したのは、①持続可能な未来に向けた中小・小規模企業支援②小規模企業振興③観光振興④ものづくり振興⑤多摩地域振興⑥島嶼



▲令和6年度予算などで要望（都議会自民党の予算要望聴取会）

## 東京都予算に対する要望

### 1. 持続可能な未来に向けた中小・小規模企業支援

- ①長期化する原油や原材料高騰等により大きく影響を受けた中小・小規模企業への対策の充実と新たな時代に向けた支援の強化について【重点】
- ②中小・小規模企業の事業の継続に対する支援の強化について
- ③税制の見直し等に関する国への働きかけについて

### 2. 小規模企業振興

- ①小規模企業への支援のさらなる充実について【重点】
- ②商工会等を中核に支援力を強化した実効性のある支援体制の強化について
- ③中小・小規模企業の働き方改革の実施に対する支援の強化について【重点】

### 3. 観光振興

- ①多摩の観光振興を推進する広域的なネットワークへの支援の強化について
- ②多摩地域への観光客誘致について
- ③多摩地域から羽田空港への鉄道アクセスの強化について
- ④島嶼地域の活性化および観光産業に対する支援について

### 4. ものづくり振興

- ①ものづくり中小・小規模企業への支援の充実について
- ②中小・小規模企業の人材確保支援事業に対する支援の継続について

### 5. 多摩地域要望

- ①横田飛行場の民間利用促進について
- ②多摩地域土地基盤整備等の早期実現について

### 6. 島嶼地域要望

- ①島嶼地域の活性化支援策の強化について【新規】
- ②離島航空路線の便数確保および燃料への補助制度の支援について
- ③小笠原空港の早期開設について

地域振興の6分野、17項目です（別表）。  
山下会長は、都議会自民党の要望聴取会の冒頭で「地域の企業の業績もコロナ禍以前の状況に戻りつつあり、今後のさらなる回復につながるものと期待しています。しかし、長

引く原油・原材料価格や電気料金の高騰により、中小・小規模企業では厳しい状況が続き、コスト増を価格に転嫁できない企業が半数以上にも及んでいます。さらに、大企業に比べ十分な賃金引上げが困難なため人手不足が深刻な状況です」と、多摩・島嶼地域の中小・小規模企業が置かれている現状を訴えました。また「私も商工会では、こうした厳しい状況に直面しながらも、DX化による事業の効率化や新たな市場の開拓など、創意工夫を重ねて努力する中小・小規模企業を支援してきました。それをさらに強化するために、事業の継続と事業の承



▲「事業の承継、継続と創業に対する支援を」と山下会長

継、創業に対する小規模企業の支援と、多摩・島嶼での新たな地域活性化への支援をお願いしたい」と強く要望しました。  
都議会自民党の予算要望聴取会には、山下会長と、込山雄茂副会長、奈良部義彦副会長、傳田純専務理事、小野寺崇事務局長、小林義浩事務局長が出席。山下会長が要望を述べ、傳田専務理事が要望の具体的な内容について説明しました。

## 人事交流

【退職】（8月31日）▽東村山市業務

細沼巧

【異動】（9月1日）▽羽村市課長補

佐（国立市課長補佐）佐々木規之▽国立市係長（羽村市係長）永須裕一

【採用】（9月15日）▽昭島市一般戸

澤遊（10月1日）▽小笠原村業務大澤菜摘

地域名は商工会名。業務は業務支援員、記帳は記帳相談員、一般は一般職員のみです。



## 多摩地域ものづくり中小企業の「事業創造」を応援する

## 「多摩ものづくり応援団」を創設

東京都  
商工会連合会

東京都商工会連合会(都連・山下真一会長)は、多摩地域におけるものづくり中小企業の「事業創造」への取り組みを加速させていくため「多摩ものづくり応援団」を創設し、9月27日に結団式を行いました。同応援団には、多摩地域のものづくり中小企業の経営者OBや、学識経験者、支援機関の職員など11人が参加、団長には相馬光学(東京都日の出町)の浦信夫会長が就きました。

多摩地域のものづくり中小企業を取りまく環境は、大規模工場の相次ぐ撤退や、3年間にわたる新型コロナウイルスによる影響に加え、燃料・原材料の価格の高騰もあって、厳しい状況にあります。また、人手不足や後継者不足なども依然として続いています。ものづくり中小企業は、これからの事業の方向性を打ち出そうとしています。その多くは、新市場進



▲多摩ものづくり応援団の結団式

出、事業革新、人材確保・育成等を含む「事業創造」への取り組みを思い通りに進めているとは言えない状況にあります。

結団式の席上、挨拶に立った浦団長は「多摩地域はものづくりに関するポテンシャルが高く、多くの企業や大学、研究機関、支援機関があり、世界的に通用する技術を持った企業が存在します。また、企業経営や技術開発で活躍しリタイアされた方々も多く住んでいます。こうした「多摩の力」を、現在、事業創造を考えている多摩のものづくり中小企業や、これから事業を始めようと思っている若い起業家のために活かすことができないうのが『多摩ものづくり応援団』の発想の原点でした。全力で応援していきます」と述べました。

多摩ものづくり応援団は、今後、経営、技術等の相談に対応するなど、

ものづくり中小企業の「事業創造」へのチャレンジを応援していきます。「毎年3回程度」ものづくり応援会議を開催し、多摩地域のものづくりをどう応援していくかを検討するとともに、公的な産業技術の研究所や大学、高専などがもつシーズと多摩のものづくり企業のマッチングを図っていきます。

## 多摩ものづくり応援団の団員(敬称略)

- ▽団長 浦信夫(相馬光学会長)
- ▽副団長 伊東歌津己(伊東NC工業会長)
- ▽副団長 小川正博(静岡県立大学客員教授・兵庫県立大学大学院客員教授)
- ▽団員 森川秀行(ユニフローズ会長)
- ▽団員 佐藤文典(アツデン顧問)
- ▽団員 竹嶋賢(元日刊工業新聞記者)
- ▽団員 樋口明久(東京都立産業技術研究センター多摩テクノプラザ所長)
- ▽団員 小野桂一(八王子商工会議所中小企業相談所所長)
- ▽団員 神田晶江(青梅商工会議所中小企業相談所所長)
- ▽団員 芝田達矢(立川商工会議所中小企業相談所所長)
- ▽団員 小野寺崇(東京都商工会連合会事務局長)

## 秋のイベント

東京都商工会連合会 多摩観光推進協議会

- ・「地酒列車モニターツアー」は多摩都市モノレールで!
- ・「東京多摩観光フェア」奥多摩やまめの押し寿司のテイクアウトが大人気!

## ■多摩モノレール地酒列車モニターツアー

昨年、JR青梅線で貸し切り電車を使って行った「地酒列車」のモニターツアーは大好評でしたが、今年も行います。ただ、今年を利用する交通機関が地上を走る電車ではなく「多摩都市モノレール」です。

3回行う予定で、11月10日の第1便は、外国人旅行者などを取り扱う旅行者やプレス関係者が対象です。11日の第2便が一般公募で、25日の3便は在日外国人が対象となります。募集人員は各100名程度。定期観光化を目指します。

多摩都市モノレールを貸し切り運行し、社内で地ビール、地酒、地元ワイン、地域食材などのつまみを楽しみながら、富士山や多摩の山並みを眺めるという趣向です。多摩都市モノレールを利用した民間事業者による観光ツアー開発へのモデル事業として実施するものです。

第1便では、多摩センター駅で、東京都酒造組合による試飲・販売

(ミス酒東京が参加)や南京玉すだれのアトラクションがあります。



▲晴れていれば、こんな富士が見られるかも?(多摩モノレール提供)

## ■東京多摩観光フェア

多摩観光推進協議会は10月3日(火)～7日(土)までの5日間、東京・新宿のJA東京アグリパークで「東京多摩観光フェア」を開催しました。大型立体マップの展示や観光マップを使った多摩地域の観光プロジェクトの紹介、多摩野菜、特産品の販売を行いました。また、今年も「奥多摩やまめの押し寿司」をテイクアウトで販売。準備した数量(40食)はあっという間に完売になりました。「大型のやまめで、味も最高」と評判は上々で、これを目当てに来場するファンも増えているようです。

中小企業  
景況調査

# 多摩地域商工会エリアの景況

5年度  
第2・四半期  
7~9月

製造、建設は持ち直しの動き続く  
消費は物価高に水を差される

製造業

売上高前期比DIは改善、採算期中DIは横ばい、資金繰りDIは悪化。経営上の問題点の第1位は6期連続「原材料価格の上昇」。

小売業

売上高前期比DI、採算期中DI、資金繰りDIのいずれも悪化。経営上の問題点の第1位は8期連続「仕入単価の上昇」。

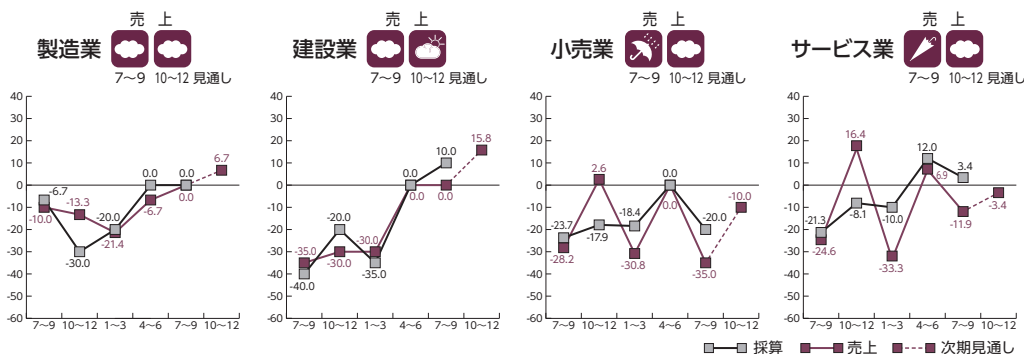
建設業

売上高前期比DIは横ばい。採算期中DIは上昇。資金繰りDIはわずかに低下。経営上の問題点の第1位は10期連続「材料価格の上昇」。

サービス業

売上高前期比DI、採算期中DI、資金繰りDIのいずれも悪化。経営上の問題点の第1位は6期連続「材料等仕入単価の上昇」。

### 売上高(前期比DI)・採算(期中DI)の推移



注1. DI値(景気動向指数)のプラスは好転、マイナスは悪化とみる。  
注3. サンプルは多摩地域150企業原数値採用。

注2. DIマーク ※:+30~ ☹️:+10~+30 ☺️:+10~-10 📉:-10~-30 📉:-30~  
注4. 採算は当期中の「好転」-「悪化」のDI値

### 調査企業の声

- \*既存顧客の中期予測も好調である。中でも航空機関連が徐々に回復を見せている。新規の引き合いも数社ある。来期で大規模な設備投資を検討している。(金属製品塗装業)
- \*戸外作業で今年のような曇りは今後大きな不安である。人材確保に向け働きやすい職場環境づくりに力を注ぐ。(造園工事業)
- \*秋の味覚の代表である秋刀魚やスルメイカの仕入価格が高騰し、店頭に並べるには難しい状況である。(鮮魚小売業)
- \*仕入単価は上がっているが、顧客への値上げもある程度はご理解いただけているので、極端な負担にはなっていない。案件が増加傾向で人員不足により遅れが出ている。(自動車一般整備業)

## 12月1日 多摩・島しょ地域のイベント

中止あるいは延期されることもあります。念のため、主催者に日にち・会場などを確認の上、お出かけください。

日程	イベント名	会場	主催者・問合せ先
12月 11月25(土)~ 2024年1月13(土)	日の出町 大久野イルミネーション2023 都道の街路樹や「こども未来公園」をイルミネーションで飾り付けて、地域を明るくする	日の出町大久野地内	大久野を明るくする会事務局(090-7256-5368:宮田)
	国上市 大学通り商店会クリスマスイベント 恒例のイルミネーションツリーやオブジェが1日~1月1日に点灯。23日は昼間にイベントを開催(ミニコンサート・抽選会など)	国立駅前大学通りの歩道・緑地帯(JR中央線国立駅南口)	大学通り商店会事務局(国上市商業協同組合事務局内:042-572-1730)
1月	2(火) 神津島村 乗り初め 豊漁を祈願し、港に係留している漁船からみかんやお菓子などを撒く	多幸湾	神津島村役場(04992-8-0011)
	7(日) 八丈町 第43回 八丈島パブリックロードレース ハーフマラソン、10km、3kmのコース	富士中学校(スタート・ゴール)	八丈島観光協会(04996-2-1377)
	27(土)~ 28(日) 八丈町 第32回 八丈島産業祭 漁業・農業・商工業者による特産品などの展示・即売会	八丈町役場	八丈島産業祭実行委員会(役場内:04996-2-1125)
	28(日) 大島町 第69回 伊豆大島椿まつりオープニングセレモニー 江戸神輿とあんこパレード	大島町元町地区	大島観光協会(04992-2-2177)
	28(日) 調布市 第68回調布市民駅伝競走大会 毎年恒例の調布市民駅伝競走大会を、味の素スタジアム アミノバイタルフィールドをメイン会場として実施する	味の素スタジアム・都立武蔵の森公園特設周回コース	調布市スポーツ協会(042-481-6221)



## 中小企業受注拡大プロジェクト

## ~受発注取引のマッチングサイト~ ビジネスチャンス・ナビ

ビジネスチャンス・ナビは、官民の入札・調達情報を一元的に集約した受発注取引のマッチングサイトです。現在、東京都の外郭団体など計35団体が電子入札サイトとして活用しているほか、民間事業者による発注案件は累計で3,500件以上掲載されており、また、官公庁等の入札案件や民間企業の調達案件を一元的に掲載しているところが大きな特徴です。ビジネスチャンス獲得に向けて、ぜひユーザー登録(無料)をお願いします。

URL: <https://www.chancenavi.jp/bcn/>

チャンスナビ



で検索!



「島の魅力を世界に、  
世界の魅力を島民の皆様へ」

有限会社 山田屋  
代表取締役 山田 達人 氏

この人に聞く  
**島おこし**  
**多摩おこし** 八丈島 No.38

### —山田さんが八丈島で酒類の販売を行うようになった経緯を

私は生まれも育ちも八丈島。高校まで地元の学校に通い、東京にある流通販売業の専門学校で学んだ。1987年に卒業しビール大手企業に就職した。91年、25歳の時に家業を継いだ。ただ、その時の経営状況は芳しいものでなく、借金もあった。いろいろ試行錯誤を続けながら、懸命に働いた。先代(父)の頃からいる従業員一人と妻との3人でスタートし、97年に法人化した。

長屋の一角に机と電話だけを置いて、業務用の酒類(飲食店などで使う酒類)を販売していた。超薄利多売で365日休まず営業していたところ、地主の都合で立ち退かなくてはならなくなった。

今までの借金もなんとか返し終わっていたところだったので、八丈町商工会にも相談し、政府系金融機関から融資を受け、新社屋を建てることにした。購入した土地は2つの港と空港とを結ぶ八丈中央道路に面した立地で、業務用の酒類を保管する倉庫も建てた。2006年のことだった。

その後の10数年は、比較的順調に営業数字が伸びていった。次の設備投資計画もほぼ完成し、新しいステップを踏み出すところだった。

### —そこに新型コロナウイルスが襲ってきたわけですね。

新型コロナウイルスの感染増加は、業績の支えになっていた業務用酒類の売上に大きく影響した。島の皆さんは、飲食店へ行って食事をしたり、お酒を飲んだりする行動が感染につながると判断したようだ。とくに感染拡大当初は、人と人の接触を避けるという考え方が強かった。それまで売上の70%を占めていた飲食店向けの業務用酒類販売のうち、90%の注文が途絶えた。

会社の存続自体が危ぶまれる状況に陥った。さすがに夜も眠れず思い悩んだ。真っ先に従業員の顔が思い浮かんだ。彼らの生活を守らなければならない。そこで『食品販売に力を入れる』ことを決断した。食品卸など食品流通をやっている知り合いに片っ端から連絡を取って、酒のつまみなど加工食品を融通してもらった。冷凍食品を販売するため、商工会の支援でコロナ融資を活用し、保存用の冷凍庫や冷凍ショーケースを全部で11台導入した。

また、八丈島特産の濃厚なジャージー牛乳を使用したカフェラテ、爽やかな酸味が特徴のパッションフルーツジュース、明日葉(あしたば)を使用した明日葉ソフトクリームなど、八丈独特の食材を活用したドリンクやスイーツなども提供できる態勢を整えた。

気軽に食べたり飲んだりできるようにカフェスペースも

店舗内に増設した。さらには、普段からお酒の取引をしている、島内で有名な飲食店などにお弁当を作ってもらって販売したところ、大ヒットし、お弁当を買いにきたお客様が、ほかの品物を買って行くという効果も生まれた。地元の農協女性部から採れた野菜を仕入れるようになり、地域に密着した販売態勢が整って、コロナ前の来店客数を上回るようになった。

### “夢の実現”に向けてもっと貪欲に!

コロナ禍もやや落ち着きを見せ始め、島にもゆっくりとだが日常が戻ってきている。私は今回のコロナ禍を経験して、初心に立ち帰り「丁寧に自分の店の立ち位置を計り直して、島民の方々により楽しんで頂けるようにしよう」と思い始めた。

八丈島に焼酎の作り方が伝わったのは1853年。鹿児島県阿久根から八丈に来た丹宗庄右衛門が島の人に伝えたとされている。その技術が東京諸島の各島に伝わって、それぞれの島で個性豊かな独自の酒文化を作り上げてきた。

『自分の島の酒を自分の島で飲むのが一番』というのが島酒好きのスタイル。最近では、島の湧水で作られるクラフトビール(神津島)や海底で熟成したラム酒(小笠原)まで売られている。島酒文化も多様化しているようだ。

そこで私は、以前から販売していた東京島酒の深掘りや、島酒の原点になった鹿児島県の本格焼酎、全国各地のこだわりの日本酒とローカルフード、EUの自然派ワインに再度力を注ぎ込むことにした。

「八丈島へ来たら東京島酒やローカルフード、島外(国内)や世界のこだわりのお酒に出会えて楽しそう!」と思ってもらい、一人でも多くの島への観光客や移住者が増えれば、島の酒屋として本望だ。



◀自然派(農薬を使わない)ワイン



▲伊豆諸島の島酒が勢ぞろい

〒100-1511 東京都八丈島八丈町三根1952-1  
TEL:04996-2-1161  
<https://8jo-yamadaya.co.jp/>





新製品・新事業への挑戦で、さらなる飛躍を!

わが社の

## 経営革新計画 PART2 No.33

「トップレベルの流体制御技術を  
根幹に新しい枝葉を広げる」



株式会社  
ユニフローズ

社長  
内山 章 氏  
(あきる野商工会会員)

もう一度、理科学機器への  
帰帰を図りたい

2022年9月に事業承継した。現会長の森川秀行氏からの承継だ。以前から決まっていたことで特に抵抗感はなかったという。承継したユニフローズは、医療機器に組み込むマイクロポンプやバルブ、脱気装置などの製造を得意とする会社。計測機器大手の日本電子出身の会長が1985年に立ち上げた会社だ。一方、内山社長は山梨県の職員として県有林経営や県森林総合研究所で研究成果の普及を図るなど、林業の現場で技術指導を行ってきた。

精密分析機器と林業。やや趣を異にする。ただ、内山社長は、今のユニフローズのポジションは「結構いいところにある」と言っ。やっっていることも自分が基本的に志向してきたこと、考えていることと、そう遠くはない、と。「時間をかけて、じっくりと研究してきたから…」と自信をみせる。また承継後は「経営方針などには会

長は一切口を出さない」そうだ。

理科学機器メーカーとして事業展開してきたが、今は医用機器向けが多く、理科学機器の比率は10%程度だ。しかし医用機器は大手メーカーの装置に組み込まれることが多く、新型コロナウィルスの感染拡大時期に当たったことや、海外の政治動向などが反映されることも少なくない。もう一度理科学機器を増やして、医用機器とのバランスをとることが必要だと考えている。簡単でないというが、内山氏は「医用機器は理科学機器の応用だから、状況に応じて転換が可能」と、それほど難しいとは思っていない。ただ、決して医用機器の売上を減らすということではない。あくまで理科学機器のウエイトを大きくして、適正なバランスを目指す。

キチンと結果が出て、かつ正確で取り扱いが簡単な「小さくてもテキルヤつ(理科学機器)」を作っていくことが狙いだ。また、それこそが技術力が高い中小企業が生き抜いていく道だという。

### 小型で操作が簡単・低価格な 液体クロマトグラフの開発

今回、ユニフローズが経営革新計画の承認を目指すことになったのも、理科学機器と医用機器とのバランスを取るためのステップの一つといえる。

具体的には小型で操作が簡単で低価格な「高速液体クロマトグラフ(e-HPLC A4)」を開発し、市場に投入する。クロマトグラフは、液体の中にある複数の物質を分離して、どんな物質がどのくらい含まれているかを調べる装置だ。物質を正確に調べることで、生産現場での品質管理や食料品の開発のほか、環境分野

などへの応用も可能になる。

実は、ユニフローズは2017年から子供たちに理科学の面白さを教えようと教育用のHPLC「e-HPLCことり」を開発している。ポンプ、インジェクター、検出器といったHPLCの基本要素だけで構成した、操作が簡単で低価格なHPLCで、小中学校から高校、大学、企業まで広く支持されている。より本格的なHPLCに近づけるために開発するのが「e-HPLC A4」となる。

### 主要部品の内製化で納期短縮・コストダウン

ユニフローズは、新HPLCの開発・生産を始めるにあたって以下の目標を掲げている。

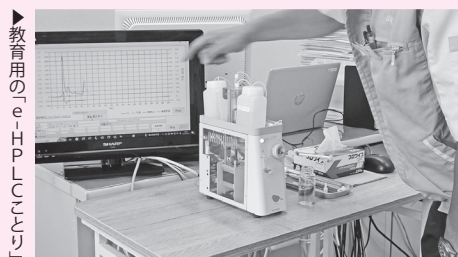
- ① 医用機器への組み込みユニットなど、医用機器分野に加えて、理科学機器分野を強化する
- ② 開発を機に装置の心臓部となる「小型高圧の無脈流送液ポンプ(カスケードポンプ)」を自社開発・自社生産する
- ③ カスケードポンプの開発を早期に行うにはキーとなる部品の内製化が必要になるため CNC 自動旋盤を導入する

このうち、②の新カスケードポンプの自社開発・生産は、世界的な原材料価格の高騰、もの不足により、金属加工を始め、機械加工業界の生産態勢が追い付かずサプライチェーンが乱れ、外注加工部品の納期が長期化しているという背景に対応

したものだ。既存製品の標準部品でも1カ月の納期だったものが5カ月の納期を求められているという。まして、新たな部品では5〜8カ月を要する見込みだ。しかし複雑な機械加工などは、これまで外注に頼っていた。キーとなる一部の部品を内製化することで、納期の短縮とコストダウンをはかるのが大きな目標となる。

一方、販売体制についても見直しをかけていく。理科学分野については複数の代理店を開拓してリスク分散する方針だ。新製品の高速液体クロマトグラフ「e-HPLC A4」の開発・市場投入は、製品群の充実だけでなく、ユニフローズを生産・販売の体制を転換させていくことになる。

内山社長が経営革新計画について、こう語る「社名にもあるように、わが社は流体を扱うことを専門としている。トップレベルの流体制御技術を根幹に、新しい枝葉を広げたい」



住所: 〒190-0144  
東京都あきる野市山田405-3  
TEL: 042-533-0508  
URL: <http://cus4.uniflows.co.jp/uniflowswp/>

教育用の「e-HPLCことり」



- ・若者の嗜好の変化をどう取り込むかが課題
- ・人の流れを所沢に向かないように

東村山市  
御菓子 清水屋

代表 松本 國秋 氏  
(東村山市商工会会員)



### ■ 国宝の木造建築物がある町で約100年

東村山市で3代続いている老舗の和菓子舗。多摩湖(村山貯水池)の堤防が出来上がるころ(大正末期~昭和初期)に初代の松本國平氏が創業したというから、100年は経っていないものの、あと2、3年で100周年を迎える。近くには臨濟宗正福寺があり「地蔵堂」は都内唯一の国宝木造建築物として有名だ。建立は室町時代の1407年。清水屋は正福寺の門前に店を構える菓子舗として地元はもちろん、遠方からの参拝者のくつろぎの場として親しまれてきた。正福寺の檀家でもある。

穏やかな風貌の松本國秋氏(以下、國秋氏)は、高校卒業後、お菓子の学校に通ったのだが、それが高じて、なんと先生になってしまったというエピソードの持ち主。何事にも手を抜かない。その後、家業について40年。現在、代表を務めている。

### ■ 秘伝の“甘さ”のコントロール

清水屋を代表する和菓子に「千体地蔵最中」がある。これは、正福寺地蔵堂が千体地蔵堂と呼ばれていることに由来する。江戸時代の中期に民衆の間で流行った地蔵信仰によって小さな地蔵尊像が納められるようになり、現在1,000体を超える地蔵が堂内に祀られているという。千体地蔵最中は宗教行事としての地蔵奉納を和菓子の形に委ねて、参拝の思い出とともに有難くいただく習慣としたアイデア商品だ。

清水屋の和菓子全体に言えるのは、甘さを控えめにした餡(あん)を用いたものが多い気がする。お寺を中心とした冠婚葬祭用のお茶菓子として「甘すぎないように」という配慮が働いているのだろう。これがベストセラーとして長続きする秘訣かもしれない。國秋氏に聞いたが「その時代に合った甘さを求めて作っているだけで、そんな難しいことは考えていない」と煙に巻かれてまさに禅問答になってしまった。

### ■ 新型コロナによって包装材料が高騰した

正福寺参道の菓子舗として永年、親しまれてきた御菓子清水屋も、新型コロナの感染拡大には抗えなかった。「原材料の高騰もあったが、人の流れがピタッと止まったのが大きかった」。大手菓子舗がバタバタ倒れるのを耳にする「明日は我が身と思った」そうだ。

原材料が一番困ったのは何と「包装材の値上がり」。ひとつ一つの菓子を包んで仕上げるため、かなりの負担だった

という。「千体地蔵最中はコロナ前で年間1万3,000~1万5,000個くらいは売れていたが、それが6~7割くらいに減った」という。

対抗策として、國秋氏は「若者の嗜好をどう取り込むかを課題にした」という。最近の若者は和菓子にも変化を求める。清水屋も数年前からトライアルも含め、若者向けの菓子作りに集中している。その一つが、市内の農園から直接新鮮な果物などを買い付け、果物の加工、菓子の製造を行っている。成果として出てきているのが「八国山ブルーベリー饅頭」や「八国山ブルーベリーゼリー」といった果実を使ったお菓子。また、マスカットなどを使った新製品の開発にも余念がない。「果物は親戚が作っていますから…」と次のヒットを狙っている。どら焼きも「多摩湖ナシ」を使った「ナシドラ」が人気らしい。

### ■ 所沢に引っ張られないような魅力的な街に

國秋氏は現在、東村山市商工会で副会長を務めている。副会長は3年目になる。東村山市の産業が成長するには何が必要かを聞くと「いかに人の流れを所沢に向かないようにするか。電車の乗客が所沢に流れるのは悔しい」と話す。

それには、魅力的な街作りが必要になる。西武鉄道東村山駅が一つの核になるのは間違いないが、都や市を含めての長期的な街づくりの施策をどう作り上げるかがカギになりそうだ。



参道の曲がり角という好立地にある清水屋



銘菓 清水屋の「千体地蔵最中」

〒189-0022 東京都東村山市野口町2-4-1  
TEL:042-391-0172